

○奥村 寿崇、真谷 亜衣子、宮木 康夫
和歌山医療センター 病理診断科部

【はじめに】胆嚢に発生する悪性腫瘍は乳頭腺癌や管状腺癌がほとんどで、印環細胞癌は1%未満とごく稀な腫瘍とされている。今回、胆嚢に認められた印環細胞癌の2症例を経験したので報告する。

【症例1】患者：70代、男性。主訴：上腹部膨満感。既往歴：高血圧、前立腺疾患。現病歴：上腹部膨満感および上腹部痛を自覚し、近医受診。急性胆嚢炎が疑われ当センターを紹介された。CTにて胆嚢腺筋症を指摘され胆嚢摘出術が施行された。細胞像：術中採取された腫瘍内容液検体では、豊富な粘液を背景に、核腫大濃染を示し細胞質に粘液を含む異型細胞を認めた。組織像：摘出標本肉眼所見では、胆嚢底部に粘液産生旺盛な乳頭状隆起病変を認めた。ミクロ像では、印環細胞の胞巣状増殖を主体とする腺癌が認められ、線維筋層内に間質増殖を伴って浸潤し、漿膜下層まで浸潤を認めた。

【症例2】患者：60代、女性。

主訴：黄疸

既往歴：変形性股関節症。

現病歴：全身倦怠感を認め家族により黄疸を指摘され、近医受診。黄疸精査のため当センターを紹介された。CTにて胆嚢癌を指摘されEUS-FNAが施行された。

細胞像：豊富な粘液を背景に、核腫大を示す異型細胞集塊および細胞質に粘液を含む異型細胞を孤在性に認めた。

組織像：淡明泡沫状の細胞質と偏在核を有する異型細胞を認め、粘液による核の圧排像も認められ印環細胞癌と診断された。

【まとめ】今回、胆嚢に発生した印環細胞癌を2症例経験した。背景に豊富な粘液および細胞質に粘液を含む異型細胞が認められた場合は、稀な腫瘍であるが印環細胞癌も念頭に置き検鏡する必要があると考える。

連絡先 073-422-4171 (内線 1611)